

自己評価結果公表シート

【法人理念】

「大慈愛心」親が子に抱くような慈しみ愛する心
大きな慈愛の心をもって皆様と向かい合います。

【保育理念】

「仏教」を基本理念とし、子ども一人一人を大切に、保護者からも信頼され、地域に愛される園を目指します。

【保育目標】

「健やかな心」を育てるために

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1. めぐみの心を持ち、命を尊重する子 | 《生命尊重》 |
| 2. 善悪を見極め、絶えず正しい方に進む子 | 《修善》 |
| 3. 自分の立場を考え、他と協調できる子 | 《協調》 |

【評価項目の達成状況】

令和4年度は、相次ぐ保育施設における不適切な関わりが報じられたため、例年の自己評価を変更し、全国保育士会作成の「保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト ～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用し、おこないました。結果、現状の保育における不適切な関わりは報告されませんでした。
また、静岡県は不適切な保育の未然防止に向けた研修会を配信し、全職員が視聴しました。その感想も記載しております。

自己評価を振り返り

保護者アンケートを通じての感想

- ・良いところや疑問点など、さまざまな意見を聞いてよかったです。
- ・保護者の意見を見て、話ができる時は保護者に子ども達の普段の様子を話していたが、保護者の中には物足りなかったと感じる人がいたので、より話をできるようにしていきたいです。
- ・あゆみ園の乳児保育担当制について共感して頂いている方が多く、私も保護者の期待に添えるよう丁寧に保育していこう、子ども達が毎日楽しく過ごせるようにすることで安心して預けて頂けるようにしていこうと思いました。
- ・どの保護者にも安心して預けられると思ってもらえるよう園での様子を丁寧に伝えていきたいと思いました。
- ・今の給食風景が当たり前になってしまっていますが、保護者の方もおっしゃっていたように1日でも早くコロナ禍前の3クラスで給食が食べられるようになるのいいと思いました。
- ・あゆみ園の方針に、理解・協力してくださりうれしく思います。将来、ここで育って良かったと思いで出してもらえよう園になれるよう接していきたいです。
- ・保護者の方がどんなことに不安を抱いたり、悩んだりしているのか知ることが出来て良かったです。改めてコミュニケーションをとって信頼関係を築いていけるようにしていきたいです。

給食アンケートを通じての感想

- ・「家庭では野菜をあまり食べないが給食では完食している」「食べる事が出来ている」という声が多く、野菜メニューもあゆみ園の味に慣れ親しんでくれていると感じました。また家庭でも同じようなメニューを取り入れている方が多くいると知り「レシピを教えて欲しい」という意見が多かったので、簡単に作れるレシピはホールのレシピとは別に給食写真の隣に掲示をして家庭で作る機会を増やしてもらえたらと思いました。
- ・作り給食の多くの感謝の言葉があり、あゆみ園の給食に共感してくださり今までの取り組みは正しかったと感じました。家庭でも、食について話してくれている園児もいるようで、感動しました。1度の食育活動で身に付くこともあるかもしれませんが、毎日食べる食べること、日々の小さな積み重ねで、健康な食が自然に身に付き、食べる意欲につながる食育を今後も取り組んでいきたいです。

- ・今まで、子どもの自己肯定感や主体性を育むことを意識して保育をしてきました。その中で職員間の『子どもを甘やかす』『子どもに甘えさせる』の捉え方の違いに悩む事もありました。しかし、今回の研修を受け、保育者が安心の基地、安全な避難場所となり、子ども達が生活の中で様々なことにチャレンジできるように安心感を与えていくことは、やはり大切だと改めて感じました。
- ・不適切な保育が生じる要因として、行事に追われたり、子ども達を大人の都合で動かさないといけないという焦りが大きな原因となっているため、子ども、職員にとって、日々の保育にゆとりが持てるような日課(心と時間に余裕が持てる)の大切さも改めて感じました。また、職員間で子どもの自主性を優先するのか、子どもをリードする事を優先するのかといった価値観や理念の違いからチームワークが乱されていくため、全職員が同じ方向性を持った環境にしていけたらと思います。
- ・「決して自分はそのような事をしていない」と胸を張って言えるだろうか、苦しくなる時がありました。反省する機会を与えて頂いてありがとうございました。
- ・職場は対子どもだけでなく、対職員とのかかわりも大きく影響してくると思います。諸先輩方に“人間関係もお給料のうちだから、周りに対して責任ある行動をとるように”と担任を任せられるようになってから指導されてきました。研修では具体的に例を挙げてわかりやすく説明されていて、改めて身を引き締めて仕事をしたいと思いました。
- ・現状の配置基準では、圧倒的に少ないと感じます。余剰に職員を抱えているあゆみ園ですら、ノーコンタクトタイムだけでなく正規職員は休憩ですらきちんととれていません。持ち帰りの仕事をなくすなど、施設として努力していますが、全園児がいる時間帯にどうやって休憩をとれと言うのでしょうか。職員は8時間労働で、園の開所時間は11時間です。あきらかに矛盾しています。異次元の少子化対策として、もっと職員が雇用できる体制を期待したいと思います。

よりよい保育を提供するため、今後どのように取り組んでいくか。

- ・保育者としての知識や学びを増やし、自信をつけていきたい。複数担任としては、他の担任が困り感を抱いていたら、援助したり、補い合える関係づくりを持てるようにしていきたい。立場によって求められることは違ってくると思うので、自分は今何を求められているか考え、応えていけるように努めていきたい。
- ・子どもや大人のそれぞれ良いところを見つけ、引き続きわからないことは話し合っていこうと思う。また、毎日笑顔と明るさを忘れずにいきたいです！
- ・やはり一番は、子ども達です。子ども達が毎日過ごせるような安心の基地と安全な避難所を職員同士で作っていくことが一番大切だと思います。職員一丸となって環境を整えていくことが一番の理想ですが、なかなか上手くいかないことが多く壁にぶち当たってしまい足踏み状態が多々あります。
- ・担任同士や先輩の保育者に相談し、自分だけで悩むことがないようにし、保育に自分自身がゆとりをもって臨めるようにする。また研修に積極的に参加することで、よりよい保育にむけて知識を高め、自身の自信へと繋げていく。

【職員の自己評価をふりかえり】

各職員ともに、今までおこなってきた保育をふり返る良い機会となりました。子どもが好きでこの職業に就いた以上、初心を思い出せば必ず不適切な保育はおこらないはずですが。ただ、給食を食べたくない園児に給食を食べるように促しても不適切。食べさせなくても不適切。こんな世知辛い世の中では、保育者も疲弊しきってしまいます。子どもも大人も健全な社会で過ごしていけるよう、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

園長 野中徹